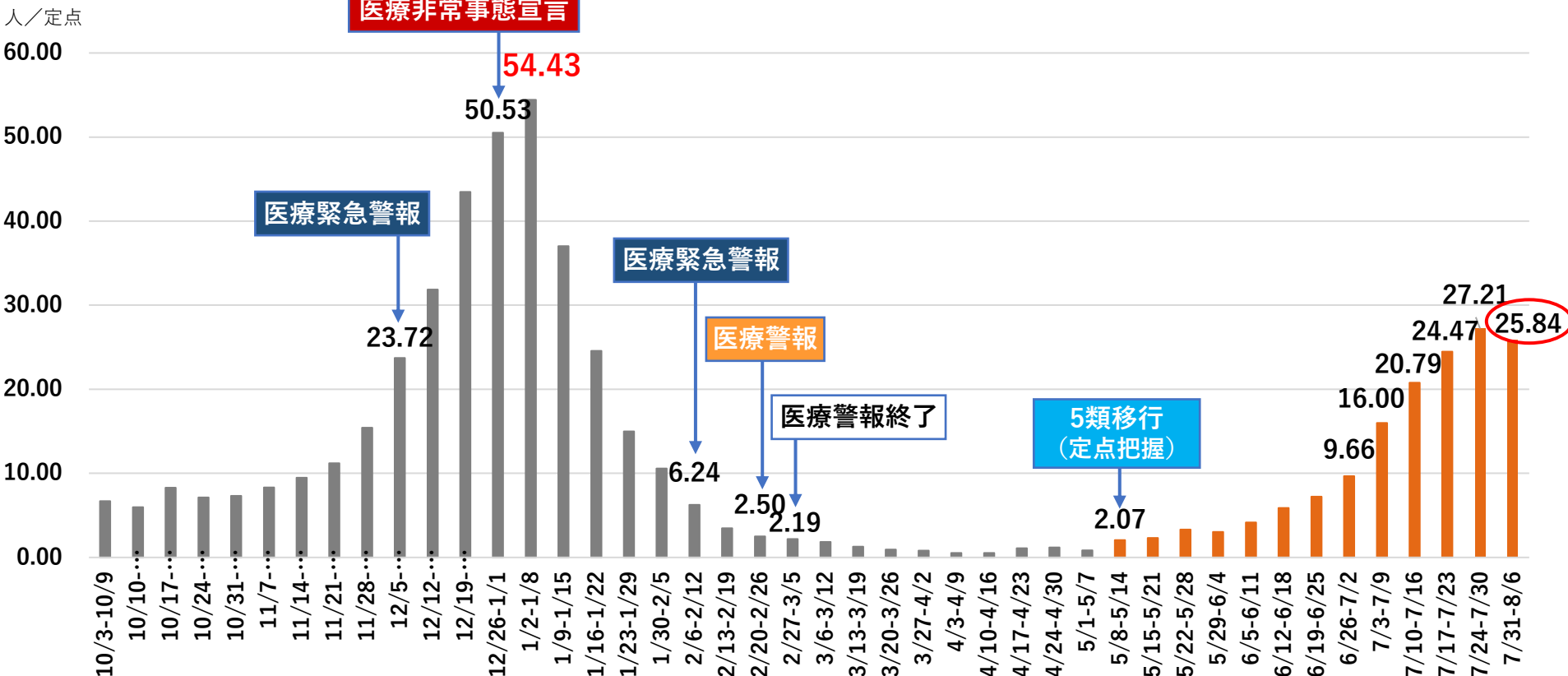


定点当たりの報告数

- ・7月31日の週は25.84（前週比0.9倍）と、9週ぶりに前週を下回ったが、引き続き定点当たりの報告数は高い水準にある。
- ・お盆休み等による接触機会の増加による、さらなる感染拡大に警戒が必要。

・発熱外来のひっ迫を防ぐため、無症状で念のための検査を希望するケースや、症状が軽いケース、証明書等の取得を目的とするケースなど、医療機関を受診する必要がない場合には、国が承認した抗原検査キット等を活用してください。

第8波（R4.10.5～R5.3.2）

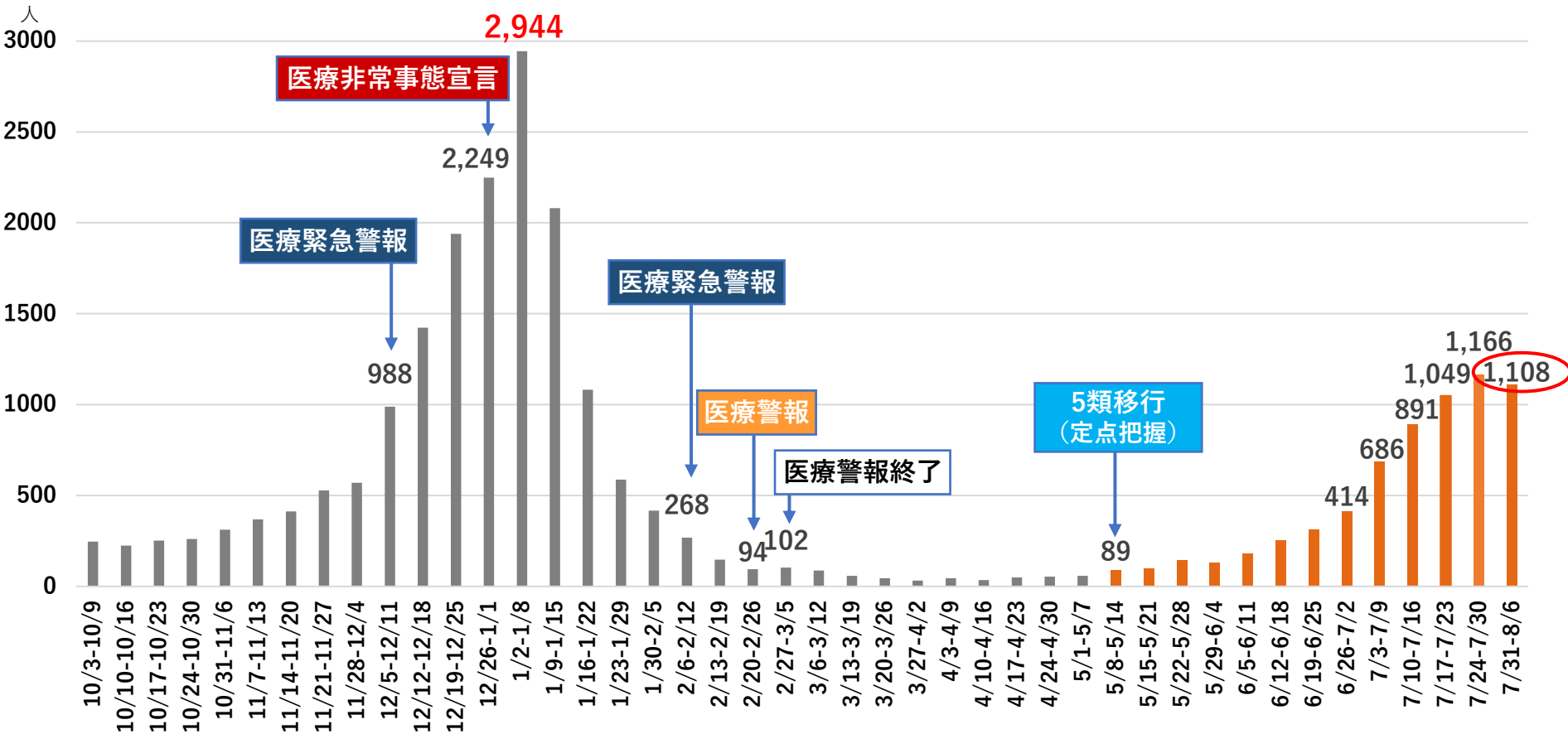


※ 定点医療機関からの報告数÷58定点医療機関。5類移行前（定点把握前）の数値は参考値

1日当たりの新規感染者推計（5類移行前は実数）

- ・7月31日の週の推計値は1,108人となっており、3週連続で千人を超える水準となっている。
- ・第8波の参考値と比べると、「医療緊急警報」を発令した時期と同程度の水準にあり、感染拡大のフェーズにある。

第8波（R4.10.5～R5.3.2）



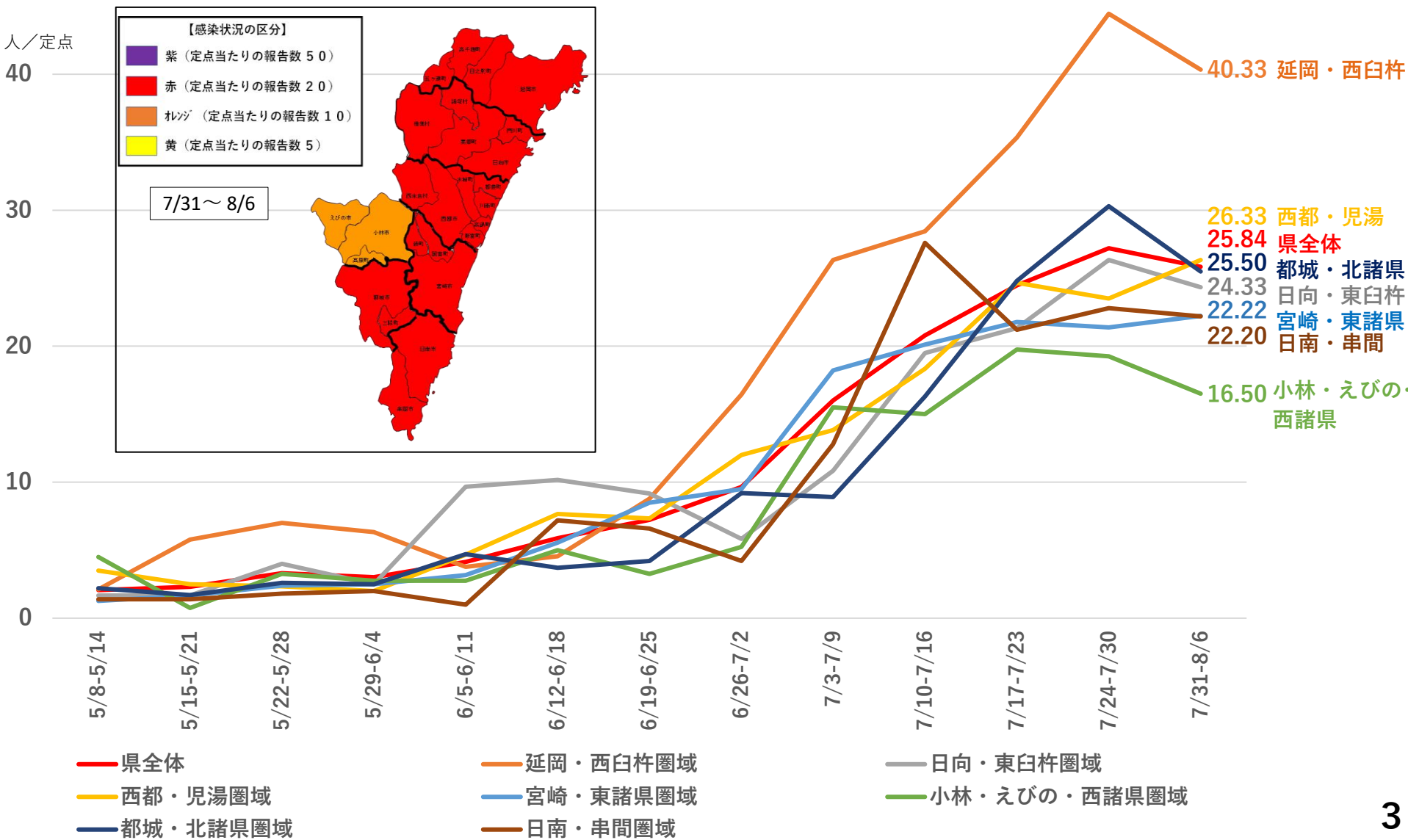
5類移行前は実人数（1週間合計人数）を7日で除した人数

5類移行後は、「第8波」の感染状況を基に推計（※）

※ 定点当たりの報告数1に対し、人口10万人当たりの新規感染者数が約30人となることを踏まえ、定点当たりの報告数×30×10÷7日により算出

(圏域別) 定点当たりの報告数

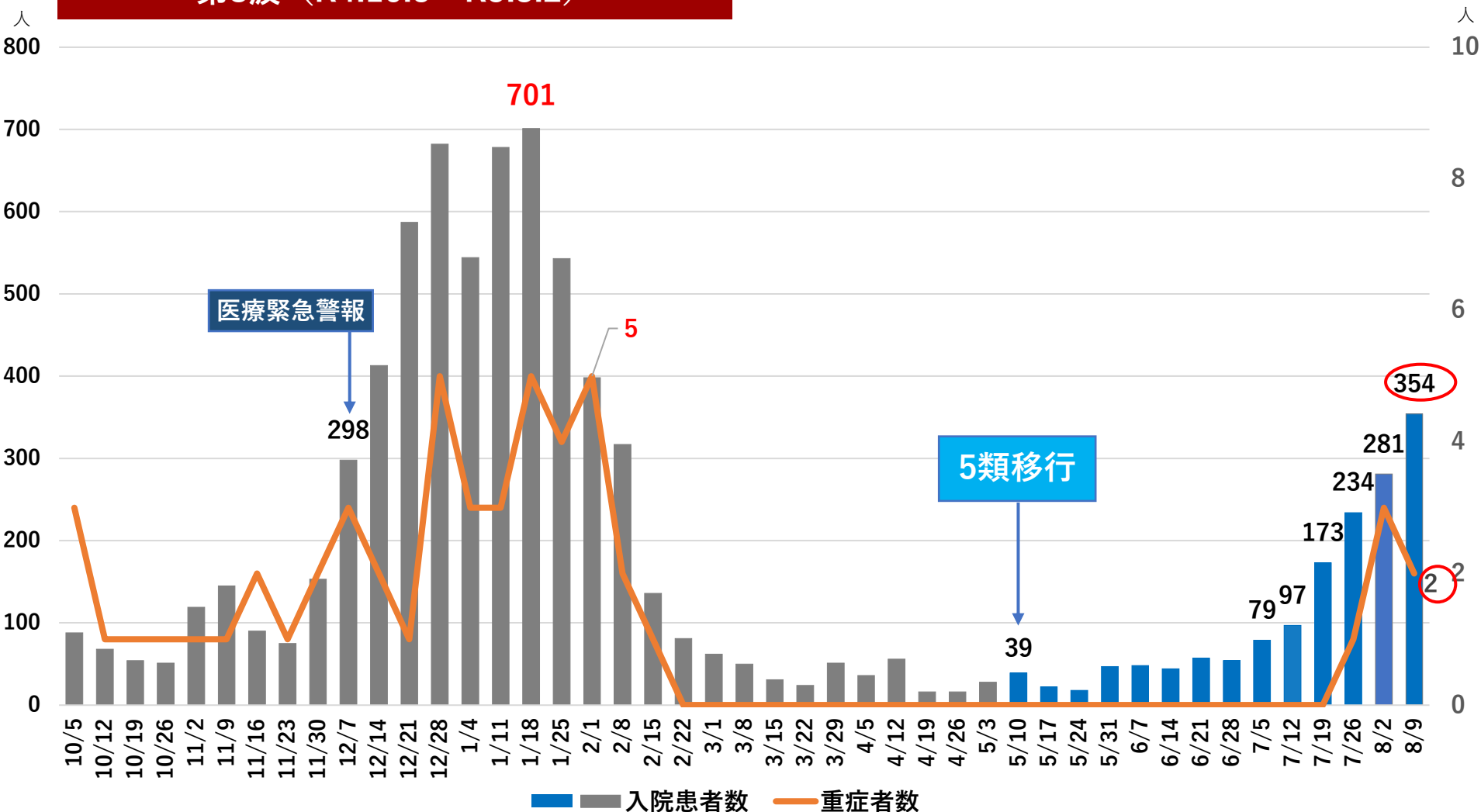
- ・小林・えびの・西諸県圏域を除くすべての圏域が引き続き赤区分となっている。
- ・特に、延岡・西臼杵圏域は40を超える極めて高い水準にある。



入院患者数

- ・複数の医療機関で院内感染が確認されており、8月9日時点の入院患者数は354名と6週連続で増加している。また、重症者数は2名となっている。
- ・県全体として直ちに入院体制がひっ迫する状況にはないものの、県内の医療提供体制は厳しさを増している。

第8波 (R4.10.5~R5.3.2)



※ 毎週水曜日時点の県内の医療機関からの報告数

夏の感染対策のポイント

高齢者や**基礎疾患のある方**が感染すれば

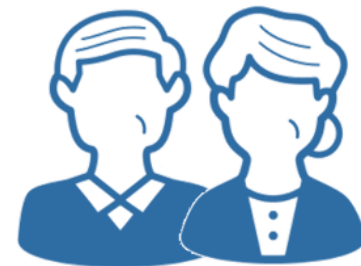
重症化リスクも高まります

夏休みやお盆に帰省等で、

高齢の方と会う場合や大人数で集まる場合は、

感染予防を心がけ、

体調を整えるようにしましょう。



感染リスクに応じた対策の実践を！

発熱外来のひっ迫を防ぐため、無症状で念のための検査を希望するケースや、症状が軽いケース、証明書等の取得を目的とするケースなど、
医療機関を受診する必要がない場合には、国が承認した抗原検査キット等を活用してください。

その場に応じた マスクの着用や 咳エチケットの実施

熱中症に気をつけながら、周囲の混雑状況など、その場の感染リスクに応じてマスク着脱の判断を！

重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、
受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時と、通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時には、マスクの着用を！

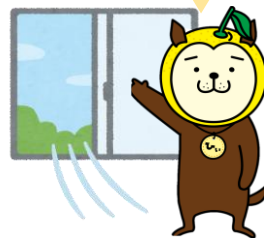


不織布マスクの着用は感染防止対策として引き続き有効です！

換気、 三つの密の回避 (密集・密接・密閉)

特に不特定多数の人がいるところでは、換気や人との間隔を空けることが、感染防止対策として有効です。

窓を閉め切りがちな夏場もこまめな換気の実践を！



手洗いは 日常の生活習慣に

食事前、トイレの後、家に帰った時などには、まず手を洗うよう心がけましょう。

※適切な手指消毒薬の使用も可



お盆期間中の体調不良時への備え

お盆期間中は、多くの医療機関が休診となります。

急な体調不良に備え、

事前に**コロナ抗原検査キット**や

解熱剤などの常備薬の準備をお願いします。



● 発熱などの症状が出たら…

かかりつけ医やお近くの医療機関に**事前に連絡**し、

不織布マスクを着用するなど**感染防止対策を徹底**した上で受診してください。

症状が軽いなど、**医療機関を受診する必要がない場合**には、

国が承認した抗原検査キット等を活用してください。

受診する医療機関に迷う場合や、新型コロナウイルス療養中に体調が急変した際には・・・

宮崎県新型コロナウイルス感染症相談窓口 ☎ 0985-78-5670